



東陽の旋風^{かぜ} ～自立貢献～

令和4年4月28日（木）No.4 発行
文責：松本 卓也

伸びる・つながる・乗り越える ～自分たちで創る新しい運動会～

特別活動は、「集団や社会の形成者としての見方・考え方」を働かせながら「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決する」ことを通して、資質・能力を育むことを目指す教育活動である。
【中学校学習指導要領解説 特別活動編】

「東陽の旋風 No.3」でもお伝えしましたが、今年度の運動会を子どもたちの大きな成長の機会と捉え、子どもたち自身が考え、創り上げる運動会にしたいと考えています。そのため、私たちは極力前には出ず、運動会という側面からサポートの役割を徹します。しかし、新型コロナウイルスの感染等、急激な社会変化が今後続くことが予想される中、必要な意欲を持つ人材を育てるため、受容的な姿勢で、根気よく継続して支援してまいります。キーワードは、『伸びる・つながる・乗り越える』です。保護者の皆様からも、温かいご助言をお願いいたします。



見守るH先生（右下）

素敵な作品をありがとうございました

先日、東陽町で書道教室を開いておられる大江田 恵扇（久子）様が、本校3年生徒の作品2点を持ってきてくださいました。未来に向けた希望の思いが込められた作品です。職員玄関に飾らせていただいていますので、来校された際には是非ご覧ください。



放送委員会の挑戦！昼の番組の生配信

放送委員会の新企画！ICT機器を活用して昼の番組の生配信に挑戦しました。番組の内容は、「東陽中数珠つなぎ！あの人、この人！」と「日替わりメニューのショートコーナー」です。初めての試みでしたが、各教室で笑顔が見られ、皆楽しんだようです。もちろんです。周りの人々を喜ばせようと、アイデアを凝らして企画・運営してくれた放送委員長と副委員長さん、ありがとうございました。



【編集後記】～「熊日杯城南地区中学生バレーボール大会、3位入賞！」～

▼先週末に開催された熊日杯城南地区中学生バレーボール大会で、本校男子バレーボール部が見事3位に入賞しました。部員に感想を尋ねると、「入賞しましたが、悔しいです。」と非常に前向きな言葉が返ってきました。▼昨年、東京オリンピックでバレーボール女子日本代表を率いた中田久美監督は、次のように語っています。▼多くの選手と接してきた中で、もつたいのないと思うことがあるんです。日本代表に選ばれる選手というのは当然それなりの力や素質があるわけですが、中には誰の壁に対しても、チャレンジしない、逃げたがりごまかしたりする選手がいるんです。その壁というのは前に進むためには絶対に必要なのに、そこから逃げちゃうというのはもつたいのない。▼ではどういった選手が伸びるかといったら、「勝負どころで自分が決めるんだ」「自分がこのチームを勝たせるんだ」って思える選手だと思います。同じくらいの素質や能力を持っている集まりの中であって最後に生き残るのは、「私の力が足りないからダメなんだ。だから力をつけるために、もっとやらないといけない」って思える選手でしょうね。【1日1話、読めば心が熱くなる 365人の仕事の教科書(知知出版社)】▼本校の部員からは、「サーブを狙っているところに打つ」「レシーブの際、しっかりミートし高く上げる」「アタックをみんなの気持ちで背負って打つ」と、自分の役割や強み、弱みを分析し、これから何を練習すべきか？自分の壁に向き合っていることが伝わってきました。▼次は、バドミントン部のみなさんの番です。今週末には、城南中学生バドミントン大会が開催されます。「勝負どころで自分が決める！」強い気持ちを持って、大会に臨んでください。応援しています。



※ご意見や感想をお待ちしています。「見ました」の一言でも構いません。

保護者名（ ）